

初月農園だより

台風と玉ねぎ

島本 聡

進路がかなり南になるとの子報に、大型台風とはいえず大した風は吹かないであろうと甘くみていた、想定外である。強い北西風がふきつけ、築60余年の木造ぼる屋は揺れに揺れた。

翌朝、周辺の被害状況を見てまわる。南東風には比較的耐えるように設計されている建物も、つよい北西風にはもろく、西向きガレージやヒサシやビニールハウスの被害はおおきい。わが愛すベき菜園は？ミニハウスや雨除けハウスの覆いはもちろん、地面にはりつけたマルチも吹き飛んでいる。やっと育ち始めた白菜、ブロッコリー、春菊、ミズナなど風に痛めつけられ全滅。何とか生き残るは大根のみ・・・

もう一度種蒔きをと気力を振り絞って種子袋の裏を見てみても、どれも種蒔き時期は八月下旬〜十月中旬まで、今から蒔く種がみつからない。露地栽培では発芽温度がたらくなくなってくるのである。何かないのか？そうだ玉ねぎの苗を植えることができる。

二度目の台風をやり過ごし、玉ねぎの苗を求めて横内のJA苗売り場に来ていた。目的の玉ねぎの苗は一本も見当たらない・・・

「玉ねぎの苗はでてないの？」
「朝のうち売れてもうない。明日朝きいや」
翌朝七時二十分少し早いとおもいつつJA苗売り場へ。あれれ？30〜40人の行列ができていて、皆様のお手には、玉ねぎの苗がぐっすり」と、開店を待っているのだ。

早生ソニック、極早生マツハなどと書いてある空箱がずらり、すでに売り切れである。近年このJA周辺には家庭菜園に第二の人生をみいだした回塊の世代が満ち溢れている。終戦直前に生まれた年代は、このたくましい回塊の世代に

おいかけれ続けられたのだ。ならば日曜日へ変更だ。八時前なのに、日曜市は人、人、半分以上の者が土佐弁理解不能の人。観光にきてるのである。私はその人々をかき分け、玉ねぎの苗を求めて走る。やっと1店みつけた。早生でも中生でも種類の良しあしはともかく、苗を手に入れることが第一。「1200本ください」おもわず声をはりあげた。

短歌

新しい年に

山本 晶子

「孫たちが普通に暮らせばそれでよい」妹と語り合う自転車こぎつ

「普通に暮らす」これがとつても難しいそれゆえにこそ努力を望む(孫へ)

日は昇り地球はまわる生かざる私の命に感謝をしよう

科学とは

(宇宙物理学者・池内了氏の講演を聴く)

叶岡 淑子

科学とは平和と福利のためにこそ胸にすとんと科学者の言

軍産学複合体への危険増すこの国の今まをまよと知る

731部隊の反省なき戦後七十二年を問うときは今

川柳

帆傘集

小澤 幸泉

若者にしつかり渡す愛の羽根

若者が「勝ってくるぞ」と騙される捨てるものもう何もない秋暮

酔うほどに涙ながらの戦さ歌

鶴形(あきら)、君の無念は無にはせず

(2面から続く)

検討事項としては、中芸高・安芸高・安芸桜が丘高三校の将来的な在り方、南海トラフ地震対応として、安芸高の適地への移転、宿毛高の適地への移転の可能性を含めた将来の学校の在り方、清水高の高校への移転を検討するとなっています。また、「適正規模」とされた生徒数を今年度下回っているのが、本校では中芸・四万十、分校では吾北・西土佐、夜間部定時制では室戸・中芸・須崎・清水です。この中には、二年連続あるいは三年のうち二年下回っているところもあります。総合学科の室戸は四系列維持が難しくなっており普通科への改編が検討される模様です。

食卓

西村雅人

食卓の上のキズ

重いものを動かしたあとがゆるやかな弧を描いている

虹のように

虹の下をくぐって

幼児が書いたみたいな線が二本

遠くまで続いている

川べりの道のように

道のそばに

マジックペンを使ったあとの

やわらかな赤い点が

ぼつんとひとつ ついでに散らずに残った彼岸花の最後の一輪のように

友だちが死んだ川べりにも咲いていた 彼岸花

思いは あの日に飛んでいく

温泉研究会 温かく 美味しく ゆつくりと

十一月十四日(火)に、恒例の温泉

昼食会を三翠園で開催しました。

十一時からゆつくりと入浴、露天風呂

も満喫、リフレッシュしました。昼食

は、少し豪華に、そしてこれも恒例の

乾杯から始まり、舌鼓を打ちました。

参加者は五名と少なかったですが、近

況報告や山登りのこと、子供食堂のこ

となど楽しく歓談しました。また次回

も楽しみにしています。

(田中 正)



も人力が1番のようだ。高知では、早生玉ねぎか極早生玉ねぎがおすすめである。収穫は、3月から6月。葉がお辞儀をするようになったら収穫である。途中ネギ坊主がでてきたら、栄養をとられないように摘む。来年の高退協定期大会には、「先着30名様3こずつどうぞ」となるように育てほしいものだ。「記憶にごさいません」とはなりませんように・・・